

デジタル田園都市国家構想交付金実施計画 (概要抜粋版)

事業概要 (1/4) 【共助のまちづくり (めぶくwith Trust) 事業】

実施地域	群馬県前橋市	事業費	259,600千円
実施主体	群馬県前橋市	人口	331,910人
事業概要	R4デジ田事業によりめぶくID*とデータ連携基盤を核とするデジタル基盤を構築したことで、デジタル上の自己主権を担保するいつでもどこでも安心なオプトイン基盤(ダイナミックオプトイン)を整えた。R5年度は、①マイナンバーカード(以降、MNC)をトラストアンカーとしためぶくIDによるダイナミックオプトインの更なる活用と、②市民参画まちづくり「Democracy2.0 with Trust」の実装を大方針とし、多様な市民を巻き込んでデータに基づく事業及び政策を実現する取組(めぶくファーム)と障がい者サポート(めぶくEYE)を行う。これら共助型サービスと基盤活用により、多様な主体が地域課題を解決し、豊かなまちづくりに参画する「共助型未来都市」を実現する。 *めぶくID (旧まほしID)		

取組内容

取組の方向性

【凡例】 R4年度事業 R5年度事業(補助対象) R5年度事業(補助対象外)

R4年度では、MNCをトラストアンカーにしためぶくID (まほしIDから横展開を見据え改名) とデータ連携基盤構築により、デジタル上の自己主権を担保するいつでもどこでも安心なオプトイン基盤(ダイナミックオプトイン)を整えた。また、まほし暮らしテック推進事業として生活を巡る10サービスを社会実装に向け構築中である。

R5年度では、①MNCをトラストアンカーとしためぶくIDによるダイナミックオプトインの更なる活用と、②市民参画まちづくり「Democracy2.0 with Trust」の実装という2つの大方針のもとにMNCの利便性を高め、その恩恵の実感が加速できる取組を行う。

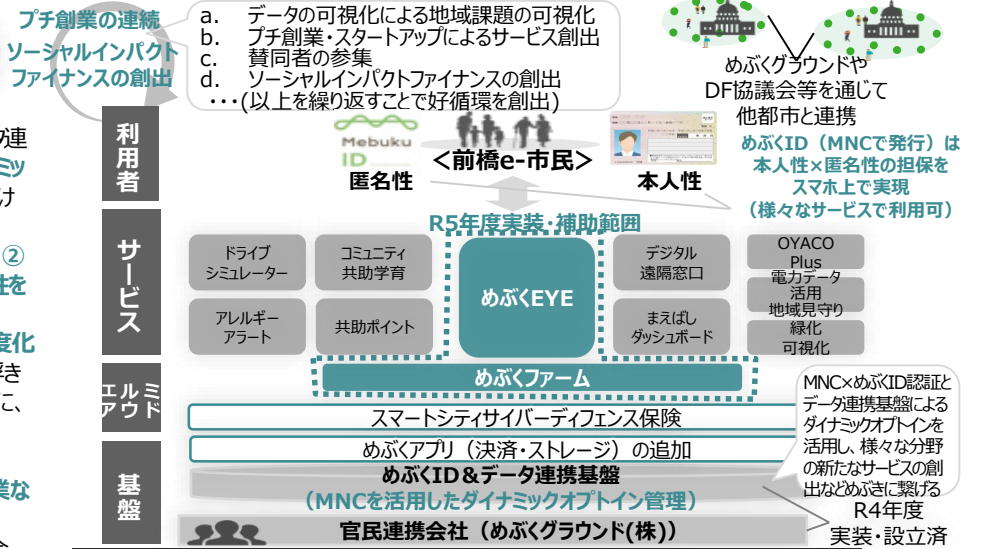
めぶくIDでオプトインされたデータによって一人ひとりのWell-beingの向上に資するサービスの高度化が実現され、さらに匿名化された情報をビッグデータとして地域・社会に活用することで地域課題が浮き彫りになる。それらの課題に対して、前橋e-市民やスタートアップが自ら手を上げ解決に取組む。さらに、その取組も可視化されることで賛同者が集いつながり、解決も高度化・加速化する。

このような、つながりで織りなすまちづくりには相互の信頼 (with Trust) が欠かせない。
信頼があるからこそ集まるデータ、人、ソーシャルファイナンスを活用し、多様なめぶき (プチ創業など) と共助を体現するサービスを実装する。

さらに官民連携会社であるめぶくグラウンドが中心となってリーダーシップを発揮し、既存のDFI協議会(現在31自治体)等も活用し、全国のモデルケースとして更なる横展開を図る。

実装するサービス

	匿名性×本人性	匿名性×本人性
	めぶくEYE	めぶくファーム
対象	視覚障がい者	若者・ベンチャー企業をはじめとしたまちづくりの担い手
課題	<ul style="list-style-type: none"> 盲導犬等を使った歩行は可能であるが、支援には限りがある 支援をしたい人がいても実現の場が不足 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の本質的な声を幅広く拾えていない アイデアや知見を持ち寄る場が少ない 市民がまちづくりに参画するスキームが限定
サービス概要	AI画像認識を活用した歩行支援や、データを基に遠隔/近隣支援者と障がい者をマッチングし街歩きを共助支援するサービス	データで課題を捉え、リアル×デジタルで国内外の多様な人々を巻き込む。政策意見反映・まちづくり参画を促し、創業等に繋げるサービス



■ MNC活用の新規性・ダイナミックオプトインのユースケース

- めぶくIDは、MNCをトラストアンカーとする電子証明書 (=本人性) を用いることで正当な手続き (裁判所命令等) を経たずのみ本人を特定する匿名利用を可能とする (=匿名性) を含む。
- また、現在一般に用いられているオプトインは、アプリの使用開始時に、広範な内容を含むオプトインが求められ、一度応諾するとキャンセルも難しい。必要な時に必要な範囲についてのオプトインが求められる、応諾し、かついつでもキャンセルできるダイナミックオプトインにより、市民は自分に関する情報の使用用途を明確に理解した上での自分の権利を守りながらデジタルの恩恵を受ける。
 (= MNC活用の新規性: MNCの信頼に基づくめぶくIDのダイナミックオプトインの価値)
- これらにより、実名としての本人性、匿名としての本人性等を担保し、共同体のための有意義な情報提供や共助、自分が誰だかわかって欲しくない悩み相談や社会に対する意見が安心してできる環境の実現や、様々なサービスへの活用、共助の取組への参画が可能となる。
- めぶくファームでは、上記が担保された意見交換・集約プラットフォームを構築することで、デジタルで安心して議論や意思表明、データの提供をすることができる
- めぶくEYEでは、本人性と匿名性が担保された共助プラットフォームにより、デジタルで安心して支援を求める/行うことができる

事業概要 (2/4) 【共助のまちづくり (めぶくwith Trust) 事業】

■ R5年度事業の全体像

- 自己超越欲求
- 自己実現欲求
- 承認欲求
- 社会的欲求
- 安全の欲求
- 生理的欲求

Digital Green City 前橋



マイナンバーカードの信頼で支える共助型未来都市

マイナンバーカードをトラストアンカーとする“めぶくID”に実装したダイナミックオプトイン機能をフルに活用。利便性を高め恩恵の実感を加速させる。

マイナンバーカードとめぶくIDの組み合わせで実現する安心で柔軟なデータ連携(DFFT)

※ダイナミックオプトイン：いつでもどこでも安心に自分の意思で自身のデータを提供・連携解除すること

これまでの暮らし

これからの暮らし

マイナカード



めぶくID

ダイナミックオプトイン (DFFT)



個人に個別最適化されためぶくID/オプトインに基づくデータ



一人ひとりの Well-being向上

エリア課題の可視化

- スタートアップ 子創業
- 学生
- 前橋e-市民
- 新しい考えやスキルを持つ人
- DAO

R5年度事業

自助共助型障がい者サポート



参加型会議プラットフォーム



若者支援 子育て支援 教育強化 福祉支援 他

共助のまちづくり (めぶくwith Trust)事業

- 自分でコントロールできる、匿名で情報提供できる安心感によって
- 共同体利益のための(健康などの機微な)情報提供が進む
- 自分が誰だか分かって欲しくない悩み相談や、意見表明などが出来る。同時に受ける側も確実に人が後ろに実在する相談や意見であるとの安心感を持つ。

Democracy 2.0 with Trust

R4年度事業

Mebuku Ground Inc. めぶくID及びデータ連携基盤構築し、それらを提供する「官民連携会社」を実装



アレルギー情報に基づく安全な食事の提供、地域での見守り・ケアや充実した子育て環境、新しい学び・つながりの場等を、地域のリソースやデータをシェアしながら、共助の精神に基づいて受益



データ利用により個別最適化(パーソナライズ)したサービスをレコメンド可能に

事業概要 (3/4) 【共助のまちづくり (めぶくwith Trust) 事業】

実施体制図

- アーキテクトがR4年度に引き続き、R5年度も企画立案検討を牽引する
- R5年度は設立した官民連携会社であるめぶくグラウンド(株)も含めて事業を推進する (めぶくグラウンド(株)はめぶくIDとデータ連携基盤を主体的に運営)

前橋市

市長
副市長、庁内政策委員会

アーキテクト (企画立案検討)

<p><デジタル></p> <p>福田尚久 氏 日本通信株式会社 代表取締役社長/ 前橋工科大学理事長</p>	<p><地域理解></p> <p>曾我孝之 氏 めぶくグラウンド(株) 代表取締役</p>	<p><新事業創造></p> <p>國領二郎 氏 慶應義塾大学教授/ めぶくグラウンド(株) データガバナンス委員会 委員長</p>	<p><人材育成></p> <p>大森昭生 氏 学校法人共愛学園理事/ 共愛学園前橋国際大学 学長</p>	<p><まちづくり></p> <p>田中仁 氏 株式会社ジンスホール ディングス 代表取締役 CEO/ 前橋市商工会議所副会頭</p>	<p><空間デザイン></p> <p>谷川じゅんじ 氏 JTQ 株式会社 代表</p>
--	--	---	--	--	--

企画サービス主体者

企画サービス支援者

**R5年度事業
開発・実装
事業者**

めぶくグラウンド(株)
(官民連携会社、事業の推進/運営主体)

2022年10月6日設立

PMO
(事業推進支援、
各種プロジェクト管理)

**デザイナー、
弁護士、
サイバーセ
キュリティ**
(各種専門ス
キル支援)

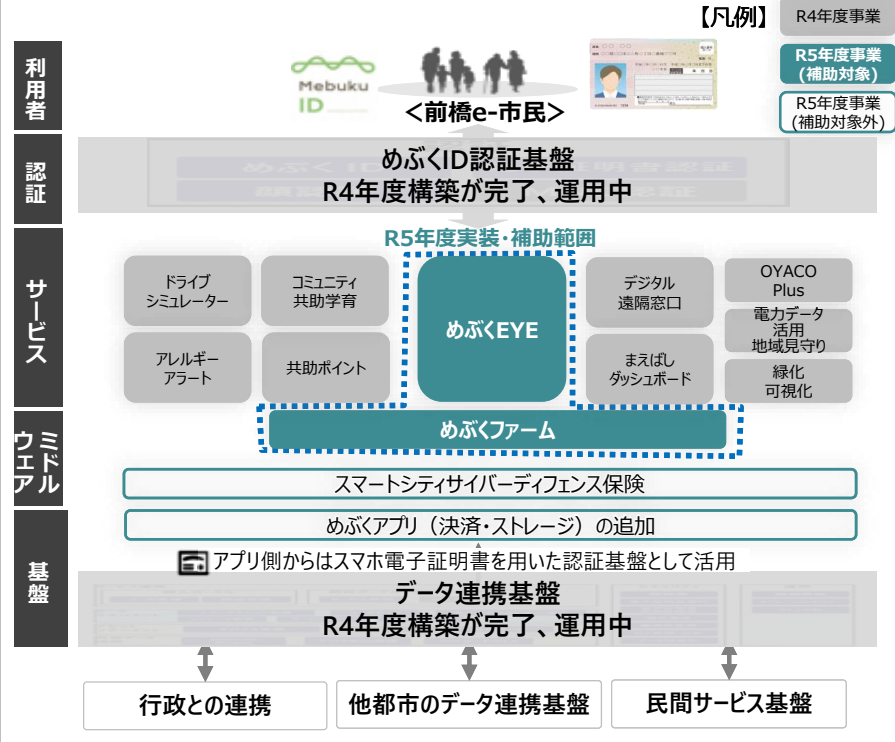
新たなアイデアの創出 / まちづくりへの参画の仕掛けづくり

めぶくファームプラットフォーム

前橋に興味がある外部人材 学生 市内5大学 地域企業 など

システム構成図

- めぶくID及びデータ連携基盤はR4年度に構築が完了
- 既に構築された社会基盤の上にR5年度は新たな分野のサービスを構築し前橋e-市民の利便性向上と共助型未来都市の実現を目指す



めぶくグラウンドの役割について (官民連携と自治体横連携)



- めぶくグラウンド(株)は、R4年度デジタル田園都市国家構想推進事業費を活用し構築しためぶくIDやデータ連携基盤を基に、前橋モデルを発展推進していく。めぶくグラウンド(株)を設立したことに加え、同社内にデータ管理の信頼性を担保するためのデータガバナンス委員会を設置したことは、「前橋市の事業推進のみならず、既存のDF協議会 (現在33自治体)等も活用し、官民一体となって全国の自治体に対して横展開を図り、リーダーシップを発揮して、このモデルを発展させていくためでもある。(「まえばしID」を「めぶくID」へと名称変更したことも、横展開を推進していくための施策であり、横展開のための覚悟の現れ)
- めぶくグラウンドは、めぶくIDやデータ連携基盤の持続的な自走の役割を担う側面と、地域企業等と新たなサービスを創出していく役割も担っている。現在、50を超える企業・団体の参画/協賛/出資等も見込んでいる。

事業概要（4/4）【共助のまちづくり（めぶくwith Trust）事業】

■ MNCの新規性とダイナミックオプトインのユースケース

MNCの信頼性で支える、めぶくIDとダイナミックオプトイン（いつでもどこでも安心なオプトイン）

めぶくIDは、**マイナンバーカードをトラストアンカーとする電子証明書（＝本人性）**を用いることで
正当な手続き（裁判所命令など）経た時のみ本人を特定する**匿名利用を可能とする（＝匿名性）**。

また、**ダイナミックオプトイン**により、自身が保持するデータをいつでもどこでも安心して自身の意思に基づいて**連携/解除**することができる。

■ ダイナミックオプトインとは

物理的制約（場所・時間）を受けずにいつでも・どこでもオプトインができること。また、オプトインをする際に、包括的に情報を連携するのではなく連携先をマネジメント・コントロールできること。加えて、一度オプトインした情報を、いつでも・どこでも解除することができることを総称してダイナミックオプトインと呼ぶ。
（現在一般に用いられているオプトインは、アプリの使用開始時に、広範な内容を含むオプトインが求められ、一度応諾するとキャンセルも難しい。）

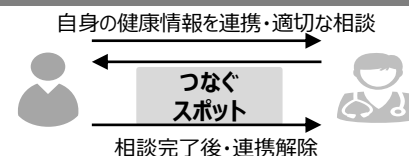


MNCがもたらすセキュアかつ本人性が担保された証明にめぶくID（スマホアプリ）を掛け合わせダイナミックオプトイン機能と匿名性を持たせることで、ユースケースのようなMNC活用新規性をもたらす

- 1. 時間と場所の制約を受けない**
MNCの信頼をそのままにスマホアプリでIDとすることでいつでも・どこでも認証とサービス利用可能に
- 2. 自身の情報を管理**
スマホ上で自分の情報をどのサービスに紐づけているかを確認し、連携/解除をいつでも可能に
- 3. 実名としての本人性、匿名としての本人性を兼ねる**
MNCとしての本人性を維持しつつ、デジタル上では電子証明書内に個人情報を含まないので匿名で対応でき、サービス用途が拡大

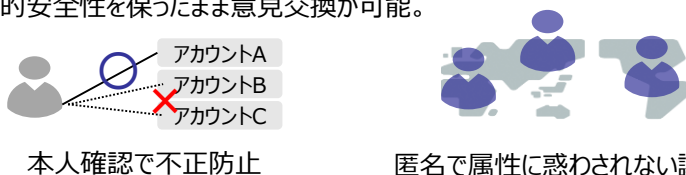
■ ユースケース1：R4年度事業（つなぐスポット：遠隔デジタル対面窓口）の場合

R4年度デジ田事業で構築したつなぐスポットの場合、今後は、自分の生活状況を説明するのに加え自分の生活データ（例えばスマートデバイスでの歩数や睡眠に関するデータ、健康診断結果等）を連携することで、より有意義な健康相談が可能となる。しかし、健康相談している期間中にはデータ連携を許諾しても、相談が終わり次第許諾を取り消す。あるいはその場限りのオプトイン（オプトインをして、データ連携が完了した段階でキャンセル）は利用者にとって利便性が高く、安心してサービスを活用する材料となる。



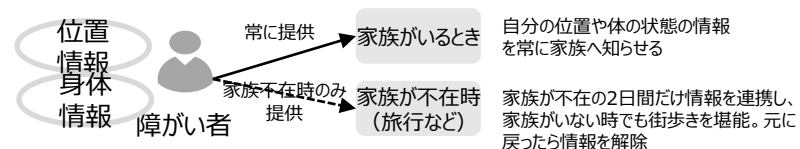
■ ユースケース2：R5年度事業 めぶくファームの場合

まちづくりにおいて、国中の様々な知識・知恵を集約することは非常に大切。しかし、悪意のある偽の情報が踊らされたり、肩書や年齢に左右されて意見が変わることを防がないといけない。
MNC×めぶくIDでは本人性と匿名性を兼ね揃えているため、裏の仕組では誰かを特定しながら、匿名で発信できるため、デジタル上で安全かつ物理的安全性を保ったまま意見交換が可能。



■ ユースケース3：R5年度事業 めぶくEYEの場合

自身が持つ機微な情報を一度連携を許可した場合恒久的に情報を連携するのは、状況によっては個人の利益にや気持ちに反する。
MNC×めぶくIDはいつでも自身の情報を管理できるので、状況に合わせて連携先を選択/解除を行うことが可能。障がい者が自身の位置情報や病気等の状態を家族不在時のみ支援者に連携するなどが可能となる。



サービス概要 (0/2)

■ 本事業におけるサービス一覧

#	今年度取組一覧	取組内容	前橋e-市民/地域への価値・効果
1	めぶくファーム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オンラインで、いつでも、どこでも、誰でも参加できるプラットフォームとMNCをトラストアンカーとしためぶくID(ダイナミックオプトインにより、自身が保持するデータをいつでもどこでも安心して自身の意思に基づいて連携/解除することが可能)と連携して、オンライン上でスレッド機能を活用した議論の場を提供し、本人性と匿名性が担保された意見交換などを行う ✓ 「市民会議」、「高校生・大学生会議」で若者から高齢者まで地域課題解決や社会アジェンダへの対策を議論していく ✓ 前橋の具体的な課題をデータで示すことで、新たなサービスアイデアの創発や新たなスタートアップエコノミーを自律分散的に作る ✓ 本取組は既存のGIA*1・GPA*2等と連携し、ソーシャルファイナンスの活用を目指す *1:群馬イノベーションアワード、*2:群馬プログラミングアワード 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MNCをトラストアンカーとしためぶくIDの活用により、本人性と匿名性が担保された意見交換・集約プラットフォームを構築することで、デジタルで安心して議論や意思表示をすることができる ✓ めぶくファームを活用することにより、いつでも、どこでも、自分の意思が反映できるようになる ✓ 前橋e-市民がまちづくりに自ら参画でき、自身のスキルを使って社会に貢献できる ✓ 前橋市はデータに基づいた根拠のある政策決定ができるため、結果的に市民のための施策が講じられることに繋がる
2	めぶくEYE (自助共助型障がい者サポート)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 視覚障がい者が自ら簡単に支援を受けられる「自助の仕組み」と、支援を受けたい人(視覚障がい者)と支援をしたい人(共助者)をマッチングする「共助の仕組み(共助PF)」を、デジタルID(MNCをトラストアンカーとしためぶくID(ダイナミックオプトインにより、自身が保持するデータをいつでもどこでも安心して自身の意思に基づいて連携/解除することが可能))でつなぎ、視覚障がい者支援の仕組みを構築する ✓ また、視覚障がい者や共助者が経験したものはデータとして蓄積され、そのデータを利活用し、サービスの向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MNCをトラストアンカーとしためぶくIDの活用により、いつでもどこでも実名としての本人性、匿名としての本人性が担保された共助のプラットフォーム、支援実績などが掲出されることにより、サポートを求める人がデジタルで安心して支援を求めることができる ✓ 視覚障がい者が一人で外出する際、AIナビが歩行をサポートすることにより、行動範囲が広がる ✓ 支援が必要な人×支援をしてあげたい人のマッチングにより、助け合い・危険状況改善等を促進することが可能になる

■ (参考) 言葉の定義

ワード	本申請書における定義
前橋e-市民	✓ 前橋市在住者に限らず、仕事・旅行等を問わずめぶくID等により前橋とつながる人
ダイナミックオプトイン	✓ いつでもどこでも安心して自分の意思で自身のデータを提供・連携解除すること
ソーシャルインパクトファイナンス	✓ 社会がよりよくなる、暮らしやすい街にするといった事柄に対して、応援したい人が投じる資金のこと
Trust基盤	✓ めぶくIDとデータ連携基盤を組み合わせ、「オプトインによるデータ流通」「連携データの任意解除」「データ提供先の選択」を行える基盤のこと
DFFT (Data Free Flow with Trust)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ プライバシー・データ保護・知的財産権・セキュリティに関する課題に対処しつつ、データの自由な流通を促進し、消費者及びビジネスの信頼を構築することによって、デジタル経済の可能性を最大限発揮する考え方 ✓ 本事業では、DFFTの観点を活かしたサービス提供の実現を目指す
めぶくファーム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ めぶくファームとは、個人に帰属するデータと地域のデータが集まり、課題を浮き彫りにし、浮き彫りになった課題に対して街づくりの担い手が積極的に取り組みかつ、賛同者が集う仕組みのこと ✓ データ・人が集まり、課題解決をすることでソーシャルインパクトファイナンスが集まり、創業などが起き続ける土台を指す

Democracy2.0 with Trust

- ✓ 「Democracy1.0」とは、市民から選出された代表者が話し合い、代表者を通じて物事を決めること
- ✓ 「Democracy2.0」とは、テクノロジーにより民意がより的確に集約されること。また、市民がまちづくりや施策決定等に主体的に参加すること
- ✓ 「with Trust」とは、自己主権の考え方に基づき、自身が保持するデータを自身の意思に基づいて連携し、また、情報連携を解除できる仕組み
- ✓ 以上より、「Democracy2.0 with Trust」とは、市民が自身の意思に基づいてデータを連携し、いつでもどこでも情報連携を解除できること。また、テクノロジーにより市民の意見がより的確に集約されるようになるため、市民が主体的に参加できることになり、民意が反映されやすくなること。具体的には以下のとおり
 - オープンデータのみならず、個人に帰属しているデータを組み合わせ分析することで、データに基づき市民の課題を適切に捉えることができる
 - ダイナミックオプトインで安心して議論や意思表示をすることができる
 - めぶくIDを起点としたデジタルの力を活用し、少数派の意見も含めて多様な意見を反映する
- ✓ 結果として、市民の声を幅広く拾うことができ、市民の声が政策の意思決定に繋がる

サービス概要 (1/2)

■ サービス内容

サービス名	めぶくファーム	事業費	82,800千円
ターゲット	前橋市民、前橋e-市民		
展開エリア	群馬県前橋市、その他		

サービス内容 (事業分野：⑫その他)

MNC活用新規性	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりコミュニティを形成する上で、メンバー間相互の信頼が極めて重要。相互信頼があってこそ、本音で自由闊達な議論や取組が可能となる。したがって、MNCをトラスターンカーとしためぶくIDにより、その特徴でもあるダイナミックオプトイン機能を合わせて、いつでもどこでも実名としての本人性、匿名としての本人性等を担保することにより、デジタルで安心した議論や意思表示が可能になり、住民請求等の新規性のある仕組みづくりを含む議論の推進・コミュニティ形成を行え、MNCの新規性の活用に該当する
----------	--

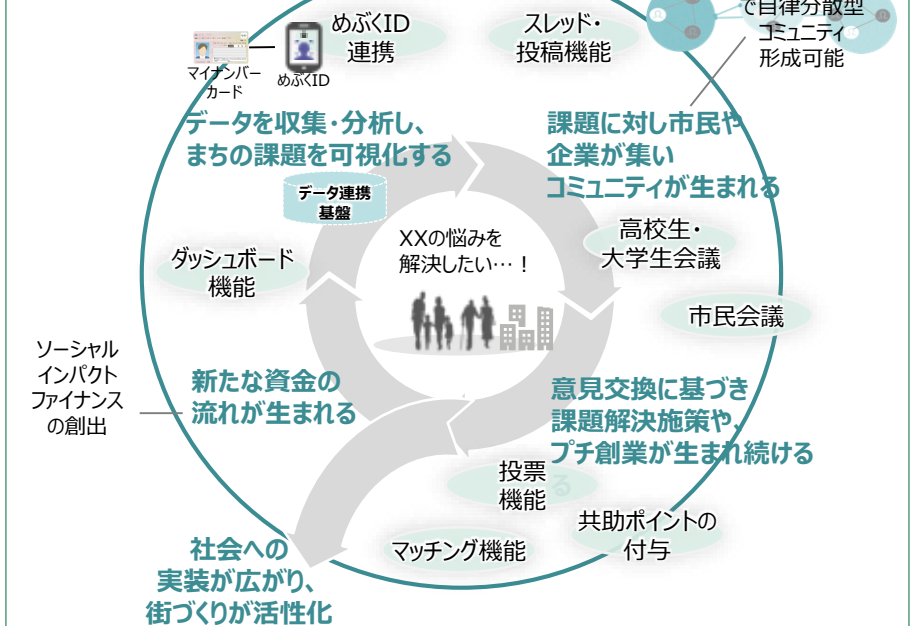
現状のギャップ	<p>【前橋市・地域住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の本質的な声を幅広く拾うには時間と労力を要する まちづくりに関して市民を巻き込む機会が限られている 市民がまちづくりに参画するスキームが限定されている 世の中の知識や知恵を政策に取り入れる手法が限られている
---------	--

R5実装	<p>【コンセプト】</p> <p>リアル×デジタルで討議やいつでもどこでも安全に自分の意思をダイナミックに反映できる場を作ることで、まちづくりに関する新たなコミュニティ形成の自己形成と展開を促す。参加者はデータに基づいたまちの課題に対して自ら解決していく仲間を集い実現していく。老若男女がいつでもどこでも声を上げることができるような環境を実現する</p> <p>【プラットフォーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> めぶくIDと連携し、匿名で参加できるPFを構築する(本人性・真正性を担保) スレッド機能を活用し、自由闊達な議論の場を提供する 投票機能を構築し、リアルタイムで市民の意見を拾う 共助ポイント(JOIN)の付与で取組を促進、可視化する <p>【会議・分析・コミュニティ・プチ創業】(生まれる効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> リアルな場所の活用とめぶくID連携都市と連携し、リアルな会議を1回以上、オンラインでの議論を5スレッド以上建て、若者から高齢者までを巻き込んで地域課題解決や社会アジェンダへの対策を議論する。 GIA/GPA等と連携し、新たなサービスアイデアの創発や資金集めを容易にしてスタートアップエコノミーを自律分散的に作る <p>【想定アジェンダ(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりに感じる課題、実現すべきこと (中高生に対して)自分の地域が住みやすくなるための意見交換 (大学生やスタートアップ)まちづくりの課題に対してできる解決策 めぶくEYEと連携し共助者を集う会
------	---

事業イメージ

だれでも自由にまちづくりに参画できる、自律分散型コミュニティを形成

めぶくファーム



実現したい将来像

- 自らが当事者となり発言すること、それらが政策の意思決定に反映される将来像を目指し、コミュニティが将来的な住民請求等につながり、投票率の増加なども目指す

サービス概要 (2/2)

■ サービス内容

*1: 英国慈善団体「World Giving Index 2022」における調査報告書より

サービス名	めぶくEYE (自助共助型障がい者サポート)	事業費	118,800千円
ターゲット	前橋市内の視覚障がい者、前橋e-市民		
展開エリア	群馬県前橋市 他		

サービス内容 (事業分野: ⑤医療・福祉・子育て)

MNC活用新規性

- めぶくEYEは、視覚障がい者の歩行をAIのみならずオペレーターや共助者によるサポートを得ることで実現するが、その時、お互いの信頼が絶対的な条件となる。したがって、MNCをトラストアンカーとしためぶくIDにより、オペレーターや共助者の信頼を、実績データ等を基に共助ポイントPF上で示した上で、視覚障がい者/家族がダイナミックオプトイン(この場合は音声によるオプトイン)することでサービス提供が可能であり、いつでもどこでも誰でも安心な共助の世界を実現することがMNCの新規活用性に該当する

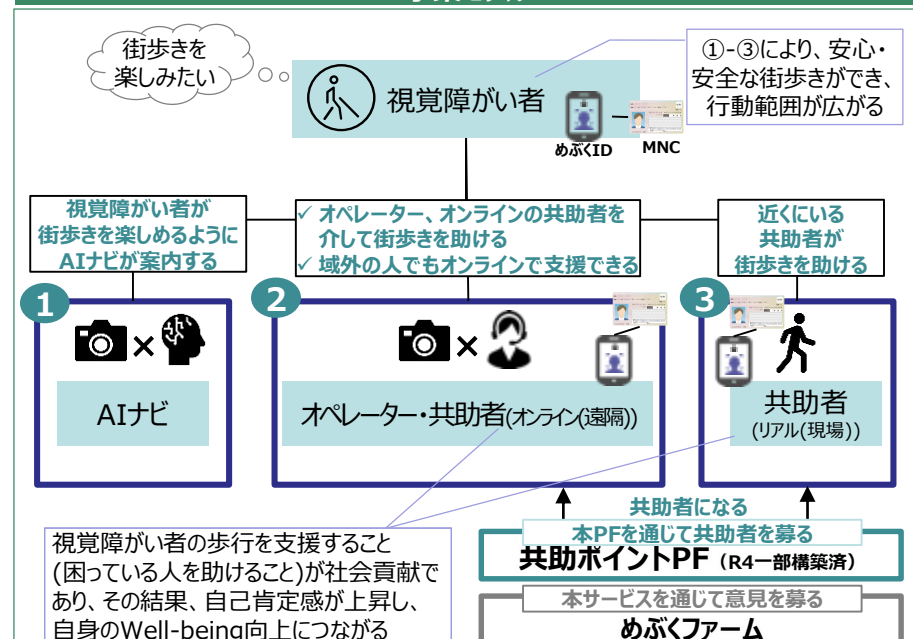
現状のギャップ

- 【視覚障がい者】**
 - 盲導犬や白杖等を使うことで、歩行・移動は可能であるが、支援には限りがあり、「散歩・街歩き」にはなりづらい
- 【支援をする人】**
 - 日本は、世界人助け指数が118位(ワースト2位)*1であり、人助け文化が浸透していないことは全国の自治体の共通課題である
- 【データ利活用】**
 - 過去の事故・リスク経験等、歩行時の情報利活用が不足

R5実装

- 【概要】**
 - 視覚障がい者が自ら簡単に支援を受けられる自助の仕組みと、支援を受けたい人(視覚障がい者)と支援をしたい人(共助者)をマッチングする共助の仕組み(共助PF)をデジタルID(めぶくID)でつなぎ、視覚障がい者支援の仕組みを構築する。また、構築する視覚障がい者や共助者の蓄積された経験値データ蓄積を利活用する
- 【具体策】**
 - ① **スマホを通じたAIナビゲーション (自助、デジタル)**
 - 身に着けたスマホカメラの視界をクラウド上のAI技術で画像認識し、障がい物等の情報をスマホから音声で伝えることで、「景色が聴こえる」歩行を実現する歩行ナビゲーションシステムを実装する
 - ② **スマホを通じた遠隔ナビゲーション (共助、デジタル)**
 - 視覚障がい者が身に着けたスマホカメラを通じてオペレーターが状況を伝えることで歩行を支援する
 - 視覚障がい者⇄オペレーター・共助者(遠隔)で繋がるシステムを構築し、歩行を支援する
 - ③ **近くの共助者によるサポート (共助、デジタル×リアル)**
 - 共助ポイントプラットフォーム (R4一部構築済) を介し、視覚障がい者と共助者がマッチングした後、位置情報を基に共助者が視覚障がい者のものとへ駆けつけてサポートする

事業モデル



※本事業での実装範囲は前橋駅から商店街等までとし、将来的には対象範囲を拡大していく予定

実現したい将来像

- 自助と共助の相乗効果による支援により「視覚障がい者でも安心して歩ける街」を実現するサービスを介し、住民の「人助け」を促進し、助け合っ心や地元愛を育み、「暮らしやすい街」を実現する
- 危険箇所等のデータを蓄積して安全なまちづくりの一助とする

サービス内容（政策目的への適合性）

■ サービスの成果を複数年にわたって計測するためのKPI（3カ年分）

【アウトプット指標（活動指標）】（①めぶくファーム）

KPI①	サービスによって立てられたスレドの数	種別	アウトプット	単位	件
KPIの概要、測定方法	当該サービスの機能にて、地域課題解決や社会アジェンダへの対策等に関する議論のために、サービス主体者・地域住民それぞれが立ち上げたスレドの数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	前橋e-市民による議論の場を提供すること、議論が前橋e-市民から湧き上がることで、新たなコミュニティを形成し、まちづくりへの積極的な貢献や参画を促すことができると考えているため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	5以上		7以上		10以上

KPI②	リアルな会議の実施回数	種別	アウトプット	単位	回
KPIの概要、測定方法	当該サービスにて、地域課題解決や社会アジェンダへの対策等に関する議論のために、リアルな会議の実施回数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	前橋e-市民による議論の場を提供すること、議論が前橋e-市民から湧き上がることで、新たなコミュニティを形成し、まちづくりへの積極的な貢献や参画を促すことができると考えているため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	1以上		3以上		5以上

KPI③	めぶくファームの利用人数	種別	アウトプット	単位	人
KPIの概要、測定方法	システムからめぶくファームの利用人数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくファームの利用人数がサービスの活動規模を表すため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	3,000		10,000		30,000

サービス内容（政策目的への適合性）

■ サービスの成果を複数年にわたって計測するためのKPI（3カ年分）

【アウトカム指標（成果指標）】（①めぶくファーム）

KPI①	継続してまちづくりに参加・貢献したいと思う人の割合	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	当該サービスを利用後アンケートを取得し、サービスの継続利用のみならずサービスを通じてまちづくりや地域貢献を行いたいと思う人の割合を計測。				
事業成果等の計測に適する理由	R3年市議会議員選挙の投票率は42.92%であり、それらを参考に、まちづくりや社会貢献意欲の高い人の割合を増やすことで前橋市が目指す共助型未来都市の実現に直結すると考えているため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	45%		50%		55%

サービス内容（政策目的への適合性）

■ サービスの成果を複数年にわたって計測するためのKPI（3カ年分）

【アウトプット指標（活動指標）】（②めぶくEYE（自助共助型障がい者サポート））

KPI①	視覚障がい者におけるめぶくEYEの普及率	種別	アウトプット	単位	%
KPIの概要、測定方法	前橋市内の視覚障がい者のうち、めぶくEYEを提供するためのスマートフォンアプリがダウンロードされた割合。前橋市内の視覚障がい者数は前橋市保有データにて、ダウンロード累計数はアプリストアにて確認し測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくEYEを利用するためには、アプリから申請し利用する必要があるため。また、めぶくEYEは本事業でのみ使用しているため、本事業の成果測定に適している。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	2		5		10

KPI②	「役に立ちたい」意思表示(オプトイン)をしているめぶくID保有者の割合	種別	アウトプット	単位	%
KPIの概要、測定方法	めぶくID保有者のうち、めぶくIDで「役に立ちたい」意思表示(オプトイン)をしている人の割合。めぶくIDの蓄積データから割合を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくIDで「役に立ちたい」意思表示(オプトイン)をしている人の割合が高ければ高いほど、前橋市が目指す「共助型未来都市」の実現に寄与するため				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	2		5		10

※前橋市における視覚障がい者の人数：731人（2022年3月末時点）

※めぶくID保有者数：3,205（2023年1月末時点。めぶく仮IDを含む。）

サービス内容（政策目的への適合性）

■ サービスの成果を複数年にわたって計測するためのKPI（3カ年分）

【アウトカム指標（成果指標）】（②めぶくEYE（自助共助型障がい者サポート））

KPI①	めぶくEYEを使って自身の外出範囲・頻度・時間が総合的に増えた視覚障がい者の割合	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	めぶくEYE及びめぶくIDを使って、外出範囲・頻度・時間を測定する。 又は、めぶくEYEの蓄積データや、利用後アンケートの入力結果より、人数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくEYEを利用した結果、外出範囲が広がり、外出時間が長くなることは、視覚障がい者のWell-being向上に寄与すると考えられるため。				
2023年度末		2024年度末		2025年度末	
5		10		15	

KPI②	めぶくEYEが役に立ったと感じた視覚障がい者の割合	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	めぶくEYEの利用者に対するアンケートで、役に立ったと感じたと回答した人の割合。 めぶくEYEを利用した後にアンケート画面を表示し、利用者に入力してもらうことで測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくEYEは「散歩」や「街歩き」などの移動を支援するものであり、利便性向上を狙ったサービスであるため。				
2023年度末		2024年度末		2025年度末	
50		60		70	

KPI③	めぶくEYEで実際に支援を実施した経験を持つ市民の割合	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	めぶくIDを保有し「役に立ちたい」と意思表示(オプトイン)している人のうち、共助プラットフォームを活用して実際に支援した人の割合。めぶくIDの蓄積データから人数を把握する。				
事業成果等の計測に適する理由	助けたい人と助けられたい人がマッチし、支援することは前橋市が目指す「共助型未来都市」の実現になるため。				
2023年度末		2024年度末		2025年度末	
2		5		10	

サービス内容（政策目的への適合性）

■ サービスの成果を複数年にわたって計測するためのKPI（3カ年分）

【アウトプット指標（活動指標）】（※めぶくID(まえばしID)）

KPI①	めぶくIDの利用回数（他地域を含める）	種別	アウトプット	単位	回
KPIの概要、測定方法	システムよりめぶくIDの利用回数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくIDの利用回数がサービスの活動状況を表すため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	4,080,000		26,400,000		38,400,000

【アウトカム指標（成果指標）】（※めぶくID(まえばしID)）

KPI①	めぶくIDの登録者数（他地域を含める）	種別	アウトプット	単位	人
KPIの概要、測定方法	システムよりめぶくIDの登録者数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	めぶくIDが広く市民に普及していることが成果となるため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	85,000		220,000		320,000

サービス内容（政策目的への適合性）

■ サービスの成果を複数年にわたって計測するためのKPI（3カ年分）

【アウトプット指標（活動指標）】（※デジタル共助ポイント）

KPI①	デジタル共助ポイントの利用人数	種別	アウトプット	単位	人
KPIの概要、測定方法	システムからデジタル共助ポイントの利用人数を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	デジタル共助ポイントの利用人数がサービスの活動規模を表すため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	70,000		130,000		200,000

【アウトカム指標（成果指標）】（※デジタル共助ポイント）

KPI①	デジタル共助ポイントの年間流通量	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	デジタル共助ポイントの年間流通数を、年間発行ポイント数とし、算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	デジタル共助ポイントの各取組の効果が出れば、年間発行数も増加し、利用の活性度を測れるため。				
	2023年度末		2024年度末		2025年度末
	900,000		3,300,000		5,000,000